

行政視察 小暮博志 議員

日時：平成31年2月5日(火)～2月7日(木)

場所：香川県坂出市、徳島県三好市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～羽田空港国内線ターミナル駅	鉄道	往	111.7	1,630	1,030			2,660
羽田空港～高松空港	飛行機	往	711.0			17,790		17,790
高松空港～坂出駅前	バス	往	22.7				1,000	1,000
坂出駅～阿波池田駅	鉄道	往	55.3	1,090				1,090
阿波池田駅～綾川駅	鉄道	復	45.7	1,070				1,070
綾川駅～高松空港	バス	復	10.2				500	500
高松空港～羽田空港	飛行機	復	711.0			15,090		15,090
羽田空港国内線ターミナル駅～佐野駅	鉄道	復	111.7	1,630	820			2,450
								0
計				5,420	1,850	32,880	1,500	41,650

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	41,650 円
(うち航空運賃)	32,880 円)
計	74,650 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長

恩田 俊



政友みらい 行政視察報告

平成31年2月5日(火)～7日(木)の日程で、①香川県坂出市、②徳島県三好市への行政視察を実施致しましたので、ご報告致します。

参加者： 篠原一世 井川克彦 山菅直己 川嶋嘉一
小暮博志 亀山春夫 慶野常夫

《視察日程・視察施設》

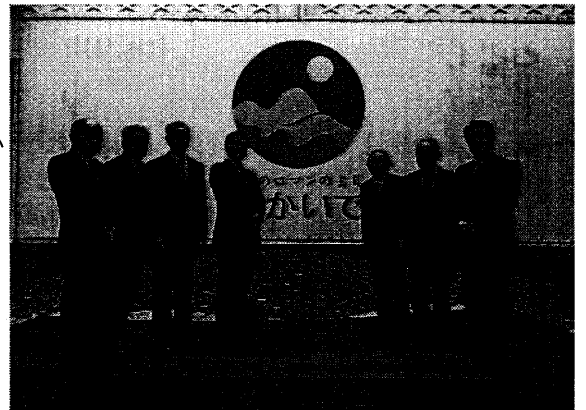
1日目、 2月5日(火) 15:00～17:00
香川県坂出市役所 ・ にぎわい創出事業について
2日目、 2月6日(水) 13:30～15:30
徳島県三好市役所 ・ 体験型観光について

《1日目……香川県坂出市役所 ・ にぎわい創出事業について》

坂出市議会議員の若谷副議長から歓迎のご挨拶をいただき、次ににぎわい室の新池室長様と、伊勢野主事様よりにぎわい創出事業についての概要説明と、事前にお知らせしていた質問事項の回答を受けました。

…質問事項…

- ①にぎわい創出事業の取り組みの経緯はどのようなものか
- ②にぎわい創出事業の補助制度はどのような活動を目指す団体が対象となるのか
- ③活動計画や地域への貢献度などの程度は、審査対象範囲はどのようになっているのか
- ④事業の対象の団体数は予算上どのくらいなのか
- ⑤補助金はどのくらいの期間が対象となるのか
- ⑥実施団体は事業計画・決算報告等はどうになっているのか
- ⑦にぎわい創出事業の事例と成果をお聞きたい
- ⑧ホームページに『にぎわい室』との記載があるが、正式に部署があるのか



上記項目に対し、資料を作成していただき、解りやすく説明を受けました。

所感

■ 平成23年4月の機構改革により地域活性化を目的に産業課内に、「にぎわい室」を設置されたものであり、このにぎわい室は坂出市観光協会と連携し年間の行事を開催しています。この坂出市は歴史に残る大事業を成し遂げ、現代の私たちの心の中に今もなお生き続ける6人の偉人(崇徳上皇・西行法師・久米通賢・菅原道真・柿本人麻呂・理源大師)たちを巡る旅「古のロマン」なども観光として行っていました。

新たな観光資源の発掘を目的として、「各種まちあるき事業」を始めました。これは地元の方とのふれあいや、普段の暮らしの風景をみてもらうものであり、コースとしては市内にある里山にスポットをあて、城跡史跡などを巡るものでありとても参考になりました。また、夫婦とカップル限定の瀬戸大橋トワイライトブリッジツアーなどの多くのイベントを行って多くの来場者に来ていただいております大変勉強になりました。

市民による、市民のための市民参加型のにぎわいづくりを目標に、にぎわいを創出する効果が高いと認められるイベント事業に補助金を出して事業を継続することでその団体が自立した運営ができるように導くことを平成25年より行っており、多くのイベントを行って大成功をしていますが、今後はこれらの団体が補助金を受けなくても事業ができるようになることが今後の課題となると思います。また、それぞれの事業で集客ができていますが、それを商店街への集客や他のイベントや事業にどのように結び付けていくかも考えていかなければならないと感じました。

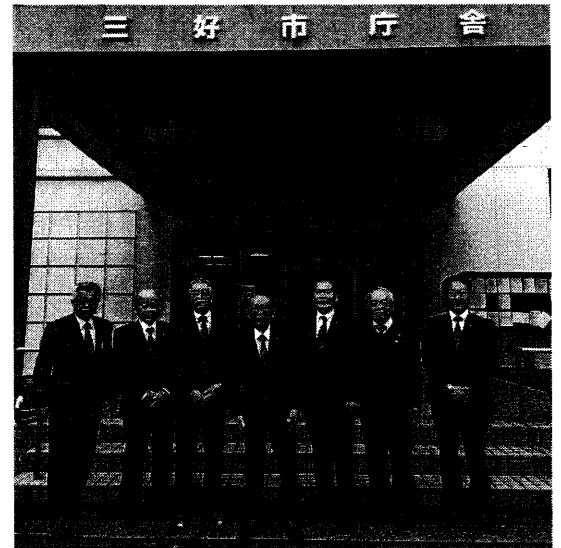
この坂出市では、いろいろな発想でにぎわいづくりを行っており、佐野市に於いても、素晴らしい歴史や史跡など数多くあるので、これらを掘り起こして観光来場数を増やしていかなければならないと思いました。

≪2日目……徳島県三好市役所 ・ 体験型観光について≫

三好市議会事務局の谷事務局次長様から歓迎のご挨拶をいただき、次に観光課の近藤主任主査様と岡主査様より、体験型観光についての概要説明を受けました。次に、事前に送付しておいた質問事項の回答を受けました。

…質問事項…

- ①体験型観光に取り組んだ経緯はどのようなものか
- ②徳島の秘境を活かしたまちづくりに取り組み、外国人観光客が4倍になった要因はどのようなものか
- ③外国人観光客の方々の観光案内として通訳はどのようにしているのか
- ④地域をみつめ新しい体験型観光商品の開発に取り組んでおりますが、開発部署と市民・関係団体との連携体制は
- ⑤色々な体験プログラムの事例をお聞きたい
- ⑥体験プログラムをどのように広報活動されているのか
- ⑦体験型観光事業が数多く実施された事により、地域にはどのような効果があるのか
- ⑧今後の展開についてお聞きたい



上記項目に対し、資料を作成していただき、解りやすく説明を受けました。

所感

■ 日本の原風景を体験、外国人観光客と触れ合う体験型観光を行っている三好市ですが、ほとんどが山林に囲まれており少子高齢化や人口減少、後継者不足と言った地方特有の課題を抱えている限界集落と呼ばれる小さな集落が点在している人口わずか26,000人のまちに、年間53,000人を超える外国人観光客が訪れていることに驚きました。

三好市は温泉ホテル5社による「大歩危・祖谷にいてみる会」という組織があり、国が2003年にスタートさせたビジット・ジャパン・キャンペーンに乗じ2007年から大歩危・祖谷にいてみる会とともに、官民連携でインバウンドプロモーションに取り組み、民間と連携することにより、現場の声や課題を事業に直接反映している。また、行政の頻繁な人事異動による人脈構築の不安を民間がカバーしてくれるなど、様々なメリットがあり素晴らしいところであると思います。

最近、体験型観光という言葉をよく耳にしますが、この体験型観光に欠かせないものは、着地型商品と言われるメニューです。その地に行かないと得られない経験や、その地で生活する人々との交流などは佐野市の中山間地の地域活性化として参考になるので、今後の活動に活かしていきたいと思ひます。